

玄海原子力発電所 1 号機の汚染調査

井口 靖明

九州電力

Email: Yasuaki_Inokuchi@kyuden.co.jp

玄海原子力発電所 1 号機は 1975 年 10 月に運転を開始し、約 37 年間稼働して、2015 年 4 月 27 日に運転を終了した。2017 年 4 月 19 日に廃止措置計画が原子力規制委員会に認可され、正式に廃止措置の手順が進められることとなった。

計画された総期間は 30 年間であり、廃止措置計画は 4 段階に区分されている。(1) 解体工事準備、(2) 原子炉周辺設備等解体撤去、(3) 原子炉等解体撤去、(4) 建屋等解体撤去。玄海 1 号機は、現在 (1) の段階にある。

この段階では、汚染されていない設備の解体と除去が行われる。その一方で、放射線被ばくを低減させることを目的として、汚染されている主な系統(RCS、CVCS、RHRS)を可能な限り除染が行われる。それから、施設内に残存している放射能濃度分布及び放射性廃棄物の量を評価するために、汚染調査を実施する。その結果に基づいて、被ばくを最小化するために、適切な解体撤去工法とその手順を策定する。

今回の発表では、玄海原子力発電所 1 号機で現在実施されている汚染調査の概要について述べる。